

東京日々新聞

九百十九号



上總國市原郡新生村の佐久間
 十郎左二門の其邊一云
 者二下らぬ富家ありその本
 家の佐久間忠七と押、倒て其財産と
 押領せんと欲て折を伺ひ待、忠七は淫慾
 ろも男あまふ十郎左門の妹と奸通し、
 たるを其妻とれと聞つて怒り、堪へず抜刀と提まけて十郎左二門が
 宅よ來りその妹ふ切て掛り殺す所の癡と負せける幸ひ
 不淺傷ちれへ命を多分助るる、初め彼の十郎左門の暗は是
 と喜ひ忽ち二計を陰に謀り、此度の始末と縣官に報知せ、忠七は外
 兩人をも忽ち捕縛し、就たり、一袋あり此邊貧窮の
 者のもよむ六年の貢租の金ふ差支のり、遂に十郎左二門が
 貧ひ物と成り、生活行ひ、以て村民が白日に彼地此
 地は謀議、そ訴状を作り、十郎左門が暴行奸計と數へて
 縣廳に告控せんとするの孫子と聞知りて、十郎左二門
 大の驚き、早そその手廻し、
 思ひ走りて縣治に至り、只何とぞ之頃
 り、御事宜じて歩行々、
 彼ら同姓の老此、
 の趣、
 へと誤認し、遂に是が為、忠七は三
 人と救、
 慶問、

蕙齋
 芳幾

人形具足屋
 渡辺彫栄

